



令和2年8月29日

皆野町立皆野小学校



1学期から2学期へ

例年より短かった夏休みを終え、いつもとは少し異なった形での1学期の終了、そして2学期に向けてというこの一週間でしたが、子供たちが元気な姿で登校してくれたことに喜びと感謝を申し上げたいと思います。

さて、本来であれば2学期は年間の学校生活の中心であり、運動会をはじめ行事がたくさんあり、教育活動が最も充実する時期となります。コロナ禍ではありますが、子供たちの「2学期への意気込み」を大切にし、教職員の創意と総意で、できる限りの教育活動を推進してまいりたいと考えます。ご家庭や地域の皆様におかれましては、これまでと同様にご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

情報化社会を生き抜く人に…。



21世紀はインターネットが普及したことで、私たちが得ることのできる情報量はそれまでの何千倍、何万倍になったことは言うまでもありません。しかしながら情報が溢れている分、そこで自分なりの考えを持ったり、真偽について見極めたりする力がより必要となる社会になったと言えます。今回改訂された新学習指導要領では『グローバルな人材の育成』を重要視しており、特にこれからの情報化社会を生き抜くために「自分の感性を豊かに働かせながら様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成して新たな価値につなげていくこと」が求められています。本校でも国語科での重点の一つとして、新聞記事などに対して自分の考えを持ち、意見文を書くといった学習に力を入れています。

情報が溢れている現在と違って、それまでの我が国ではテレビや新聞などで語られている内容はそのまま真実として受け入れればよいものばかりでした。ところが平成になるとニュースもショーとなり、キャスターや出演者が事実以外の私見も述べたり、スポンサーの都合や視聴率を求められたりするものに変化してきました。新聞も購買数を競わなければ生き残れないわけですから、読者の興味関心を惹くことを優先した『雑誌化』が進んだとも言われています。近年では残念ながら両者とも誇張や捏造によるフェイクニュースが本当に珍しくなくなりました。加えてネット上での自由な書き込みなども膨大にあるため、情報を受ける側の理解や解釈、思考や判断が一層求められるようになってきているのです。

確かに生活していく上で貴重な情報を提供してくれるのは何といたってもメディアに違いありません。しかし最近では、コロナや日韓関係などをネタに『印象操作』と言われる手法を用いて偏った情報を発信しているものも少なくありません。また、芸能人のゴシップなど誰かが失敗するのを待って揚げ足を取ろうとしている風潮など、特に子供たちにはこんな事に一喜一憂してほしくないなと願いたくなるばかりです。

このような情報化社会へと変化した今の時代に生まれた子供たちには、情報を単に鵜呑みにして振り回されたり惑わされたりすることなく、それに対して自分で客観的に考え冷静に判断できる力を身に付けてほしいと思います。無論、私たち大人も子供たちと共に成長していきたいものです。協調性があり従順さを長所に持つ日本人には最も苦手な分野だと思います…。

現在検討中の行事について② ～進捗状況をお知らせします～

(詳細は後日その都度お知らせします)

- 各学年校外学習（修学旅行・宿泊体験学習・生活科、社会科見学等）について
期日については当初の予定日とほぼ変更しません。バスの増台、コースや内容の変更などコロナ対策を講じての実施を考えています。バス増台や万が一中止となった場合のキャンセル料についてはご家庭への負担増はありません。いち早く中止を決定するのは容易なことですが、そうではなく、子供たちのために期限ぎりぎりまで模索させてください。